

三重県

前回調査から6.5%増加

最終処分量が10%膨らむ

三重県の産廃発生量

なった。

は641万6000ト

これらが発生量を基

(18年度実績)だった。

に据えると、再生利用

前回調査(13年度)の

された量は222万8

602万2000トか

000ト。有償物量が

ら、6.5%増加した。

22万トで合わせた資源

主な原因に、汚泥の増

化量は244万800

加が大きいとしてい

0ト(発生量の36・9

る。

%となる。結果的に、

排出量のうち、脱水

33万4000ト(5・

や焼却など中間処理さ

0%)が最終処分され

れた量は630万90

0ト(16・4%)、サ

00ト(排出量の98・

1プラスチック1000

3%)に上った。中間処

ト(2・7%)と続い

理を経ることなく、直

3000トの減少(増

接、再生利用された量

減量マイナス7・6

は2万6000ト(0

%)。減量化量は54万8

・4%)。直接、最終処

000トの増加(同16

分された量は8万10

0ト(40・6%)。次

00ト(1・3%)な

30万トの増加(同10・

どとなっている。一方、

0%)となった。

中間処理による減量化

%、津地域で59万30

量は385万4000

00ト(9・2%)と

ト(60・1%)で、再

泥が最も多く、409

生利用量は222万8

万7000ト(63・9

000ト(34・7%)、

%以下、がれき類が

最終処分量は33万40

116万5000ト

00ト(5・2%)と

(18・2%)、ガラス・

コンクリート・陶磁器

続いた。

くず22万1000ト

(3・4%)、廃プラス

チック類17万7000

ト(2・8%)、廃アル

カリ13万1000ト

(2・0%)、木くず12

万8000ト(2・0

%の順となった。

業種別の統計を見る

と、製造業が359万

3000ト(56・0%)

でトップ。次いで、建

設業の151万500

0ト(23・6%)、電気

・水道業105万50

00ト(16・4%)、サ

プラスチック17万1000

ト(2・7%)と続い

た。

地域別の排出量を見

ると、四日市地域が最

も多く、260万30

00ト(40・6%)。次

いで、伊賀地域が59万

6000ト(9・3

%)、津地域で59万30

00ト(9・2%)と

なっている。以下、熊

野地域、桑名・員弁地

域、伊勢志摩地域、松

阪・伊勢地域、鈴鹿・

亀山地域、尾鷲地域と

続いた。